

**ライフエンディング研究会**

子どもの葬儀での  
グリーフサポート

ライフエンディング研  
究会(主宰)小川有閑。  
浄土宗蓮寺住職)の定  
例会が1月30日、東京都  
武藏野市の武藏野プレイ  
スで開かれた。葬儀業の  
是枝嗣人・小金井祭典代  
表取締役が、「グリーフ  
サポート」の在り方につ  
いて、子どもの葬儀的事  
例を基に語った。

実際に関わった子ども  
死別に代表される喪失  
体験は、身体的・社会的  
・感情的・精神的な影響

があり、波のように襲つ  
てくる悲しみと向き合  
い、折り合いをつけてい  
く」とが必要だ。是枝氏は「一人ではど  
ても困難。地域コミュニ  
ティーや菩提寺がその役  
割を果たせばいいが、  
特に都市部では縁がない  
人もおり、『よいおく  
り』の専門家として隣で  
支えられる存在になりた  
い」と訴えた。

はり、参列者に献花の代わ  
りに棺にシールを貼つて  
もらつたりといった様々  
な工夫を、親と相談しな  
がら納得のいく葬儀の在  
り方を模索していくと説  
明した。

参加者からの「子ども  
の葬儀には無宗教葬が多  
いとされているが、葬儀  
に宗教は必要か」との質  
問に対し、是枝氏は  
「(グリーフ・ワークを考  
慮する上では)仏壇や位牌  
の日最初に焼骨が行われ  
る火葬場でなければ、温  
度が上がり過ぎて遺骨が  
残らないため、早朝から  
火葬場まで遺体を抱きか  
かえたが、納棺していな  
いと火葬場に入れない決  
定はあった方が良い」と語  
った。

世代の子どもも参列でき  
るような『氣遣い』をした  
「家族の思いと、社会の  
仕組みをうまく仲介する  
のが葬儀社の仕事」と話  
した。